

The National Trust の資産を支える地域ボランティアに関する研究

A Study of local volunteers supporting the properties at the National Trust

時空間デザインプログラム

09M43336 山本真紗子 指導教員 土肥真人

Environmental Design Program

Masako Yamamoto Advisor Masato Dohi

ABSTRACT

This study focuses on the volunteering system at the National Trust, a charity that protects and opens to the public over 350 historic houses, gardens and ancient monuments. Over 6.1 million volunteers supported the work and the National Trust calculates their contributions 3.5 million hours, which equates £29.2 million in 2009/2010. The purpose of this research is to reveal the volunteering system at the organization and the meaning of local volunteers by resource and hearing research. In conclusion, 1) The National Trust has been a representative organization that preserves environment in England and trusted by the nations. 2) The National Trust has a constructive volunteering system and various programs that attract wide range of people. 3) Each property manages volunteers by localized ways and their individualities compose the organization as a whole.

1 章：研究の概要

1-1 研究の背景と目的

The National Trust はイギリス最大の歴史的環境保全団体として 350 以上の資産の管理、運営を行っているが、同組織は現在 6.1 万人のボランティアに支えられており、その活動は金額にすると 38 億円、組織収入の 6.7% を創出していると言われている。また、同組織は 2010 年度に新戦略 Going Local を発表し、その中でボランティアを重要な存在として位置づけている。本論文ではこうした背景を元に、同組織のボランティアシステムを把握し、その意味を明らかにする事を目的とする。

1-2 先行研究

The National Trust に関する研究は歴史¹、政策の変遷²、財政状況³などについて国内外で多く見られる。ボランティアに関してマネジメント、モチベーション管理などに関する研究はあるが、同システムと地域連携に関する論文は見られない。

1-3 研究手法と論文構成

2 章ではイギリスの歴史的建造物保護制度と The National Trust に関して文献調査を行い、その概観を示す。3 章、4 章ではともに文献・資料調査、ヒアリング調査を行うが、3 章では組織のボランティアシステムや活動の種類、政策の変遷等を明らかにし、4 章では対象となる資産におけるボランティア活動の実態を把握する。5 章で総合考察を行う。

2 章：イギリスの建築保護制度と The National Trust

2-1 イギリスの建築保存に関する法律

イギリスにおける建築保存に関する最古の法律は、単体の資産保存を目的とした 1882 年の古記念物保護法である。その後、1932 年の都市農村計画法によって都市計画の中に建築物保存が取り入れられた。そして現行制度にもつながる登録建築物制

度と保存地区制度がそれぞれ 1944 年都市農村計画法と 1967 年都市アメニティ法で定められている。また The National Trust に関しては、早期から国からの手厚い法的優遇措置が取られてきた。1907 年ナショナル・トラスト法では所有する資産に対して譲渡不能の原則が定められ、1910 年財政法では資産の相続税が非課税に設定された。同法は活動を円滑化させるだけではなく、国民から信頼を得る根拠となった。

2-2 The National Trust について

The National Trust の成立には、産業革命による農地の囲い込みに対抗して創立した入会地共有委員会(1865 年)と、労働者階級の生活改善を目的としたカーン協会(1876 年)が大きく影響している。両組織に深い由縁のあったロバート・ハンター、オクタビア・ヒル、ハードウィック・ローンズリイにより、それぞれの組織を改善し融合させる形で The National Trust が 1895 年に創立した。同組織は創立以来、「国民の利益のために、美しく、あるいは歴史的に意味のある土地や資産の永久的な保存を促進する」という継続した理念を掲げており、現在 25 万 4 千 ha の土地、350 以上の資産を所有する、国内最大の環境保全団体に成長した。資産取得方針は、当該資産が i) 国民にとって重要な物であること、ii) 保存により国民の便益が向上される物、iii) 危機に瀕している物、iv) 財務的に自立している物、v) 組織にふさわしい物であること等がある⁴。なお、運営管理を行う資産は、購買又は寄贈により取得した物、及び保存誓約を締結した物がある。組織構造⁵は、まず組織の良識的立場の評議会(The Council)があり、決定機関たる理事会(The Board of trustees)がおかれている。そして、理事会から事務

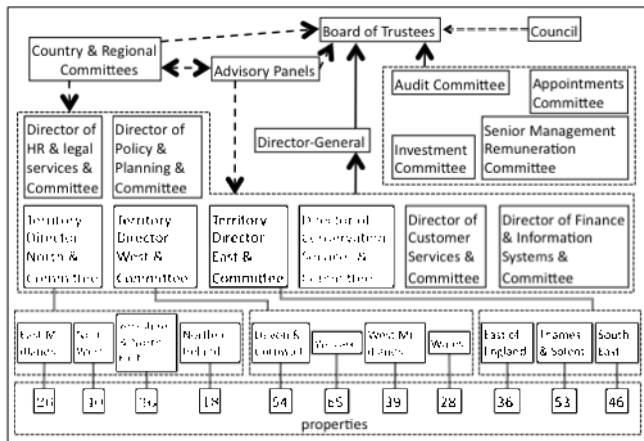


図1 The National Trustの組織機構

[The National Trust, Governance Handbook 2008 より作成]

総長(Director General)が任命され、その下に様々な活動区分の運営委員会がおかれている。エリアの管理は上部で3つに分けられ、その下に11つの細分化されている。(図1) 同組織の成長の変遷に関しては、1)草創期(1895-1907)、2) 確立期(1907-1930)、3)発展期(1930-1960)、4)変化期(1960-1990)、5)改革期(1990-現在)の5段階に分けられる⁶。草創期では極めて限られた富裕層によって慈善的な行為として活動が行われていたが確立期に1907年ナショナル・トラスト法を始めとした環境整備が行われ、発展期では1930年代のカントリー・ハウス保存計画(Country House Scheme)を通じて大きく成長した。しかし変化期にその行き過ぎた官僚的資質を指摘するベンソン報告書(Benson Report)(1968)やオーケル報告書(Arkeell report)(1983)が発表され、組織改革が行われる。改革期には新体制と共にブレア政権に同調した地方分権化を推進する政策を打ち出し、新しい公共を目指す組織へと発展している。

3章：The National Trustのボランティア

3-1 The National Trustのボランティア

表1 調査概要

調査方法	ヒアリング調査
調査時期	2010年7月25～8月2日
調査対象	Greater of London内の資産 ・Morden Hall Park ・Fenton House ・Carlyle's House Thames&Solentエリアオフィス ・Hughenden Manor
調査項目	1)ボランティアシステムの実態 2)各担当者の具体的な仕事等

ボランティアのシステムを調べるため、ヒアリング調査(表1)を行った。The National Trustのボランティア活動には、5つの基準(表2)が定められており、その徹底が促されている。ボランティアシステムの仕組みは、一番上に中央オフィスのボラ

表2 5つの基準

1. ボランティア活動に関する計画、資金、予算
2. ボランティアの特殊性の擁護
3. 推奨された手順によるボランティアの採用
4. ボランティアとスタッフの、学びと発展の場の拡大
5. ボランティアとのコミュニケーションと、彼らの認識

[The National Trust, Volunteering Policy より作成]

ンティアチーム、その下に地域ボランティアチームが置かれる。活動①～③はそれぞれ中央オフィスに専用のチームがあり、④・⑤は地域ボランティアチームのサポートのもと、管理運営は資産ごとに行っている。⑥は組織から独立し、各グループで運営される(図2)。ボランティアの活動の種類と内容は表3に示す6種類あり、技術育成を目的とするものから、余暇を楽しむものまで多岐に渡る。

種類	対象	目的	内容
1.フルタイムボランティア	18歳以上	技術習得、雇用獲得	主に資産でのスタッフの補助
2.社会人ボランティア	社会人	CSR活動、チーム形成	チームでの建物の修復作業や、自然保護活動
3.ワーキング・ホリディ	18歳以上の個人、家族	自然文化的環境への理解を深める	チームで屋外での建物の修復作業や、自然保護活動。キャンプ
4.若者向けボランティア	18歳以下	自己成長、雇用獲得	チームでの建物の修復作業や、自然保護活動。スタッフの補助
5.地域ボランティア	—	技術習得、社交の場等	ルームガイド、庭師など様々な
6.サポーターグループ	地域住民	学び、社交の場	勉強会やツアーの開催

表3 ボランティアの種類と内容

[The National Trust HP, Volunteering より作成]

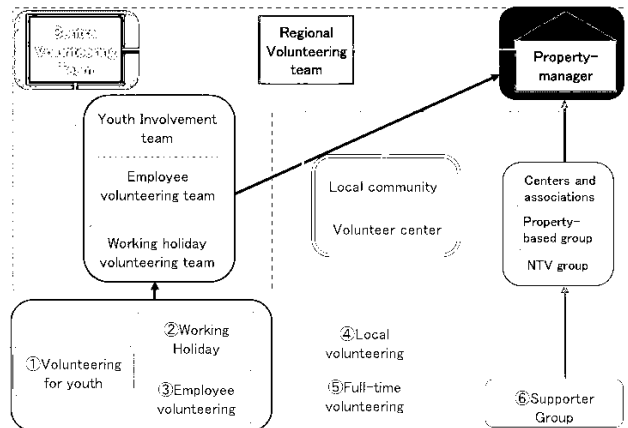


図2 ボランティアシステム [ヒアリング調査より作成]

本論文の対象である地域ボランティア(Local Volunteering)は日常的に資産で活動を行うものであり、その内容はルームガイド、庭師、など主なものから、資産によっては教育プログラムのアシスタントなど様々なものが用意されている。各役割には仕事説明書が用意され、目的や内容が詳細に定められている。

3-2 ボランティア政策の変遷

ボランティア政策の変遷は、表4のようにになっている。I期では限られた地域で個別に活動が行われていたが、II期になり組織が拡大すると資産を効率的に管理出来る専門家が注目され、ボランティアの活動は減少した。しかしIII期でオーケル報告書によって広範な理解の必要性が説かれる中でボランティアの重要性は再認識され、IV期では戦略項目の中に彼らの存在が組み込まれるようになるまで発展している。

表4 ボランティア政策の変遷

[The National Trust, Volunteering Policy, Back ground on Volunteering より作成]

時期	特徴	全体の動き	
I期 1865年-1950年代	連携のない地域的なボランティア活動	●組織的な管理のない、地域それぞれの活動	草創期、確立期 発展期
II期 1960年代-1982年	組織の発展とボランティアの衰退	●新しい活動が次々に行われるものの、組織の拡大と共にボランティアよりも専門家が重要視されるようになる ●若者の活動が目目される ●Centersの活動が大きく位置づけられる	変化期
III期 1983年-1993年	ボランティアの重要性の認識と発展	●オーケル報告書(1983)によって、ボランティア活動が組織の中で見直される ●中央オフィスでボランティアを管理していくようになる	変化期
IV期 1993年-現在	政策としてのボランティア活動	●組織全体の戦略に、ボランティアが組み込まれるようになる ●ボランティア数が急増する	変化期、改革期

表5 Going Localの3つの軸

[The National Trust, Going Local より作成]

1. Time Well Spent(費やす価値のある時間)
2. Bringing Place To Life(場所を生活に根付かせる)
3. Life Is Local(生活は地域的なもの)

また、今後の方針として

2010年に発表されたThe

National Trustの新しい戦略

Going Local(表5)では、更に

組織として成長していくため

に、より組織と地域の関係を密なものにする方針がとられた。この中で地域ボランティアは、資産と地域を結びつける重要な役割として位置づけられている。また、2008年に350人のボランティアと、70人の関連するスタッフでボランティアに関する会議が開かれた。ここでは活動の感想や課題解決の方法について共有し、今後のボランティア環境の質の向上が促された。その他、地域連携を目的としたThe Untold Story⁷やLondon Voices⁸等のプロジェクトがボランティアと共に行われている。

4章：The National Trustと地域の連携

4-1 調査概要

各資産のボランティア活動及び地域連携の実態を把握するために、Greater of Londonにある全資産9件を対象にヒアリング調査を行った。(表6)

表 6 調査概要

調査方法	ヒアリング調査(10-30分)
調査日程	10月25日-11月2日
調査対象	1) Fenton House, 2) 2 willow road, 3) Carlyle's house, 4) Morden Hall Park, 5) Osterley Park and House, 6) Sutton House, 7) Eastbury Manor House, 8) Ham House, 9) Red House
調査内容	1、数と属性 2、年間スケジュール 3、一日のスケジュール 4、活動の種類 5、トレーニングについて 6、ボランティアシステムについて 7、地域連携について

4-2 調査結果

調査結果のうち、ボランティアの数や傾向について表7にまとめた。この表から、ほとんどの資産でボランティアは50歳以上の地域住民が多いという事が明らかとなった。また資産の規模が大きいほどボランティア、活動や訓練の数が多い事、もとの所有者の知名度が高い2)2 willow road や3)Carlyle's House は資産規模に比べてボランティアの数や活動数が多い事が分かった。また、各調査項目からは次の3点が明らかとな

表 7 ボランティアの数・属性と建物の特徴

調査項目	小規模資産		中規模資産		大規模資産				
	7)Eastbur Manor House	3)Carlyle's house	6)Sutton house	2)2 willow rd	1)Fenton house	5)Osterley park and house	9)Red house	4)Morden Hall Park	8)Ham house
①ボランティア数	20	42	50	72	80	100	150	150	300
(地域ボランティア)	ほぼ全員	12	ほぼ全員	16	ほぼ全員	ほぼ全員	ほぼ全員	ほぼ全員	ほぼ全員
(男性/女性)	20/20	10/32	20/30	27/45	20/60	50/50	45/105	75/75	150/150
(年齢)	0/0/20	0/0/42	0/25/25	21/4/45	0/0/M	0/0/M	0/0/M	0/0/M	0/10/290
(4)活動数	4	1	5	3	2	9	7	7	7
(5)訓練数	x	1	5	3	2	9	7	7	7
※イベント数	8	0	8	25	17	19	6	45	13

った。①各資産はThe National Trustの地域連携に対する重要性を感じている。②活動に関して、年間スケジュールや訓練の形態は共通している。③②以外の運営方法に関してその内容は各資産で異なり、それらには統一性はなく、個性的な活動が行われていることが明らかとなった。次に特徴的な事例を2つ述べる。

●1) Fenton House(図3、表9):地域との連携に関して唯一弱

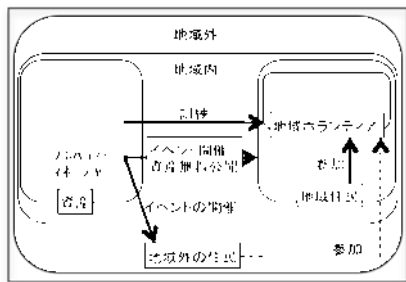


図 3 地域連携_Fenton House

いと答えたこの資産では、地域への働きかけとしては無料で地域の人を資産に招待する事に限られており、他の資産に比べるとその活動は弱い。地域の市民グループとの協働や、地域の向けのイベントの開催も行われていない。その一方この資産は、80人近い多くの地域ボランティアによってその活動は支えられている。その理由として、資産の特徴を活かしたイベントが多数開催されている事が挙げられる。15世紀の珍しい鍵盤楽器や、小さいガ

ーデニングが施されたイギリス式庭園が特徴であるこの資産ではコンサートが頻繁に行われており、また夏には庭でピクニックを開くなど、季節の自然の変化を感じるイベントが開催されている。ボランティア活動も歴史を紹介するルームガイドや、

表 9 イベント Fenton House

イベント(種類)	特徴	参加者	内容
2 コンサート	15世紀の鍵盤楽器	地域内外の訪問者	・伝統楽器の音色を楽しむ
3 シーズナル	庭(音、匂い)	地域内外の訪問者	・季節的な自然の特徴を楽しむ
4 食べ物	庭(植物:林檎)	地域内外の訪問者	・子供達と食を楽しむ、学ぶ

庭師に限られており、この資産にしかない特徴を活かした活動が行われている。現時点では、この方法がこの資産に適した運営の方法だと考えられる。しかし今後はGoing Localの流れに

従って、更に積極的に地域の人々からの積極的な介入がある活動が行われるだろう。

●4)Morden Hall Park(図4、表10):

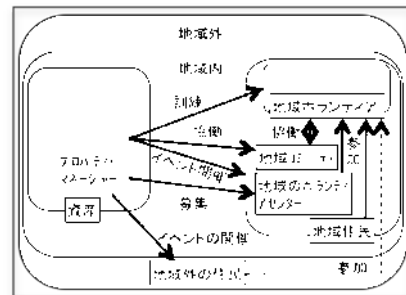


図 4 地域連携_Morden Hall Park

表 10 イベント Morden Hall Park

イベント(種類)	特徴	参加者	内容
1 歴史	資産の歴史	(主に) 地域住民 地域ボランティア	・食、歴史、自然や生き物について学び、資産に親しむ
2 家族向け	資産の緑地		
3 自然	池/芝/花		
4 食べ物	敷地内で取れた果物など		
5 マーケット	資産の緑地		
6 ゲーム			

は必ず地域の住民を含めるようにしている。ボランティアの数は150人を超え、そのほとんどは地域住民によって構成されている事から、地域住民からの支援も厚い。この資産は200種類のバラ園を持つ広大な緑地や、かつて製粉機として使われていた建物で、今は改築され環境センターとなっている施設などが特徴であり、プロジェクトやイベントもこれらを利用したものが開催されている。また、それらのほとんどは地域住民と協働のものであり、地域連携の強さが伺える。さらにボランティア活動種類も10種類と多く、またファミリー向け活動のアシスタントなど他の資産にはない活動があるなど、多くの地域住民の希望に応えられるような環境が整っている。

取り上げた2つの資産の例からも分かる通り、各資産の運営方法にはその場所、地域の性格により異なり、そこにしかない

	竣工年	公開年	建物の分類	元々の所有者	公開部屋数	公開日数	写真	地図	
1	Fenton House	1756	1952	住宅(戸建て)	Thomas Symson(商人)	9	5日/週		
2	2 willow road	1939	1994	住宅(戸建て)	Gold finger(建築家)	6	5日/週		
3	Carlyle's House	1708	1936	住宅(アパート)	Thomas Carlyle(作家)	4	5日/週		
4	Morden Hall Park	1770	1942	住宅(宮殿)	Elizabeth Murray(貴族)	125ac	一年中		
5	Osterley Park and House	1576	1949	住宅(宮殿)	Thomas Gresham(貴族)	30以上	5日/週		
6	Sutton House	1535	1938	公園	westminsterの教会	9	7日/週		
7	Eastbury Manor House	1535	1918	住宅(戸建て)	Ralph Sadleir(家臣)	13	2日/週		
8	Ham House	1610	1948	住宅(戸建て)	Clement Sysley(商人)	30以上	6日/週		
9	Red House	1860	2003	住宅(戸建て)	William Morris(芸術家)	6	5日/週		

表 8 調査対象資産

表 11 ヒアリング調査結果

No.	資産	特徴	活動内容	過去の所有形態	地域ボランティア			地域連携		
					数(地域/全体)と属性	活動内容	訓練	スケジュール	現状	関係主体
1	Fenton House	17世紀の赤煉瓦の建築様式 15世紀の鍵盤楽器 イギリス式庭園	資産公開 イベント	個人所有	ほぼ全員/80人 女性、50歳以上が多い	・ルムガイド ・庭師 ・受付	一日:公開時間中担当 の仕事を行う ・年間:冬期閉鎖	×	地域住民	地域住民を無料で資産に招待
2	2 willow road	設計者Gold Fingerの建築、 家具のデザイン 現代アートのコレクション	資産公開・イベント ツアーガイド	個人所有	45/72 女性、21歳以下が多い	・ルムガイド ・ツアーガイド ・受付	一日:ツアー(3回)、19時〜連 常公開、4-6人/日 ・年間:冬期閉鎖	○	地域のボランティアセンター 地域の商店 地域住民	ボランティアへの声かけ 資産のブログやポスターを設置 化ナネットによる資産情報発信
3	Carlyle's House	著名作家Thomas Carlyleが 使っていた部屋、庭	資産公開のみ	個人所有 地域外団体による 保護活動	12/42 女性、50歳以上が多い	・ルムガイド	一日:公開時間中担当 の仕事を行う ・年間:冬期閉鎖	○	地域の保育園 地域グループ	保育園の子供、親、ヘルパー などを無料で資産に招待 地域の名所を巡るとはスカウト を受けられる仕組みを企画
4	Morden Hall Park	広大な緑地・二千種以上の花 園 Snuff Mill Environmental Centre 地域の職人に利用される建築 カフェ、古本屋、ギフトショップ	資産公開・カフェ ギフトショップ・古本屋・イベント プロジェクト・教育活動	個人所有 公共利用(学校) 公共利用(病院)	ほぼ全員/150 50歳以上 が多い	・庭師・アシスタント(ボランティア)向け活動 、教育活動、ショップ、イベント) ・加タマサービス・巡視員・移動補助 ・受付・ケータリング	行われる全ての活動 に対して行う ・年間:年中公開	○	地域のボランティアセンター 地域グループ 地域住民	ボランティア募集の声かけ 協働でNTのプロジェクトを開催 地域向けのイベントを多数開催
5	Osterley Park and House	チューダー時代の建築、庭 357エーカーもの広大な公園の 池、木々、花	資産公開・カフェ・ギフトショップ イベント・プロジェクト・教育活動 結婚式等に資産設備貸出	個人所有	ほぼ全員/100 50歳以上が多い	・ルムガイド・庭師・受付・アシスタ ント(ボランティア、イベント、教育活動) ・ケータリング・募金集め・巡視員・ 移動補助	一日:活動により異なる 20人/日 ・年間:冬期閉鎖	○	地域グループ	協働でNTのプロジェクトを開催
6	Sutton House	チューダー時代の建築 小さな庭	資産公開・カフェ・ギフトショップ イベント・プロジェクト 結婚式等に資産設備貸出	個人所有 公共利用(学校) 公共利用(教会)	ほぼ全員/50 女性が多い	・ルムガイド・庭師・受付・アシスタ ント(ボランティア、イベント)・ケータリング・保 護活動・募金集め・巡視員	一日:活動により異なる 5-6人/日 ・年間:冬期閉鎖	○	地域住民 地域グループ 地域住民	地域住民に資産を貸し出し 協働でNTのプロジェクトを開催 地域向けのイベントを多数開催
7	Eastbury Manor House	チューダー時代の建築 蜂の木が育つ庭 スパイラル式の階段	資産公開・カフェ・ツアーガイド ギフトショップ・イベント 資産設備の貸し出し	個人所有 公共利用(行政) 公共利用(教会)	ほぼ全員/20 女性が多い	・庭師・アシスタント(ボランティア、イベント 、ファミリー向け活動)・ケータリング・ ツアーガイド	無し	○	地域住民	地域住民に資産を貸し出し 地域住民を無料で資産に招待
8	Ham House	17世紀の建築 ガーデニングが施され、様々な 植物が育つイギリス式庭園	資産公開・カフェ・ギフトショップ イベント・プロジェクト ツアーガイド	個人所有	ほぼ全員/300 50歳以上が多い	・ルムガイド・庭師・受付・ショップ アシスタント・ケータリング・ツアーガイド・保 護活動	行われる全ての活動 に対して行う	○	地域のボランティアセンター 地域グループ 地域住民	ボランティア募集の声かけ 協働でNTのプロジェクトを開催 地域向けのイベントを多数開催
9	Red House	William Morrisによる建築、 家具デザイン ガーデニングが施された小さな庭	資産公開 カフェ ギフトショップ イベント	個人所有 地域の市民団体 による保全活動	ほぼ全員/150 50歳以上、女性 が多い	・ルムガイド・庭師・受付・アシスタ ント(ボランティア、イベント、オフィス)・ケール ・保護活動	一日:平日単位でシフト が組まれている 7-8人以上/日 ・年間:冬期閉鎖	○	地域住民 地域グループ	ボランティア募集の声かけ 地域の情報を追加紙に掲載 地域向けのイベントを多数開催 当該資産へのツアーを提案

個性を活かした活動を行っていることで地域からの支援を得ているということが分かる。

5章：総合考察

5-1 ボランティアが成功している理由

The National Trust で多くのボランティアが支援を受けるに至っている理由について、考えられる以下の2点を示す。

1)ボトムアップ形式の構造的なボランティアシステムや、様々なニーズに応えられる多様なプログラムにより、ボランティアが働きやすい環境が整っている。

2) The National Trust は新しい戦略、Going Local の中で「地域」の「場所(資産)」における「時間」の質の向上を目指し、より多くの人々を巻き込んで行く事を目的としている。つまり、それぞれの建物は4章で見えてきたような個性(図5)をもともと持っており、それらを活かして地域の人々と連携をはかることが今後の方針となるということである。こうした、その場所にしかない特別性が The National Trust という巨大な組織の全体性と多様性を構築していく。

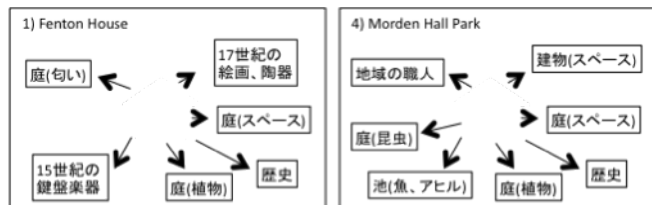


図5 建物の特徴
5-2 過去の所有形態と現状の関係

過去に病院や学校などの用途で公衆に利用されていた資産の方が、現在も地域に開放された活動を行っている。このことは、かつて公共利用された歴史のある4)Morden Hall Parkや6)Sutton House等が現在地域と協働で様々なプロジェクトを行っているのに対して、個人所有の形態しか過去に見られない1)Fenton Houseや2)2 willow roadではそうした活動は全く行われていないことから、地域と密接な関係を構築するには時間を要すると考えられる。

5-3 ボランティアの持つ意味

次に、組織におけるボランティアの意味について考察する。

1) 市民組織としての性格を特徴付ける役割: 国からの手厚い法的優遇措置を受けている同組織は、ある種の行政機関を担っているともいえる。その中で、市民によって構成される大勢

のボランティア達は、The National Trust が根本的にチャリティ組織であることを示すものである。

2) 無償の良質な労働力としての役割: ボランティア達の働きが財政的にも組織の活動を支えているのはもちろん、それはただ慈善的な無償の労働力ではなく、スタッフを実践的に支える専門的で良質な戦力として期待されている。

3) 地域と資産を結びつける役割: 各資産で働く地域ボランティア達は、組織にとっては地域住民の代表的な存在であり、他の住民にとっては身近な The National Trust の関係者である。彼らは窓口となって、両者を結びつける役目を負う。

5-4 歴史的環境保全団体における地域ボランティア

各資産での地域ボランティアによる働きにより、資産の運営状況はより自立したものとなり、組織全体の確立につながる。つまり地域ボランティアと資産の密接な関係は、資産の安定した状態を導くだけでなく組織の豊かな全体性を導く。

6章：結論

本論文の結論を以下に示す。

1) イギリスでは歴史的に国土保全の一翼を The National Trust に担わせてきた。また 1895 年の創立から「国民のために特別な場所を永遠に保存する」という継続した理念の元に発展し、現在も新しい公共を模索し成長を続けている。

2) 同組織のボランティアシステムは構造的かつ合理的なボトムアップ形式の仕組みを持っている。その活動はオーケル報告書(1983年)によって促進され、現在では彼らの活動は単なる無償の労働力ではなく、良質な戦力として期待されるまでに発展している。

3) 各資産の運営に統一性や傾向はなく、それぞれの資産にしかない歴史や文化的特徴を活かした個性ある活動を行っており、その特別性が組織の全体性を構築している。また、こうした動きは Going Local を通じて更に強まっていく事が分かった。

脚注

- 1 四元忠博「ナショナル・トラストの軌跡 1895-1945年」緑風出版 1997年
- 2 水野祥子「世紀転換期イギリスの環境保護活動」『西洋史学』第191号 1998年
- 3 藤谷岳「自然保護・アメニティ保全の費用と財政: 英国ナショナル・トラストを事例に」『一橋経済学』第3巻 第1号 2007年
- 4 国有財産管理調査センター(『季報』第52号 2005年)
- 5 The National Trust 2008, The Governance Handbook
- 6 西村幸夫「環境保全と景観創造」鹿島出版会 1997年
- 7 The Untold Story: 地域コミュニティとアーティストによって開催される地域向けイベント。
- 8 London Voices: 地域の小学校と協力し、家族に向けた学びの場を提供するイベント。